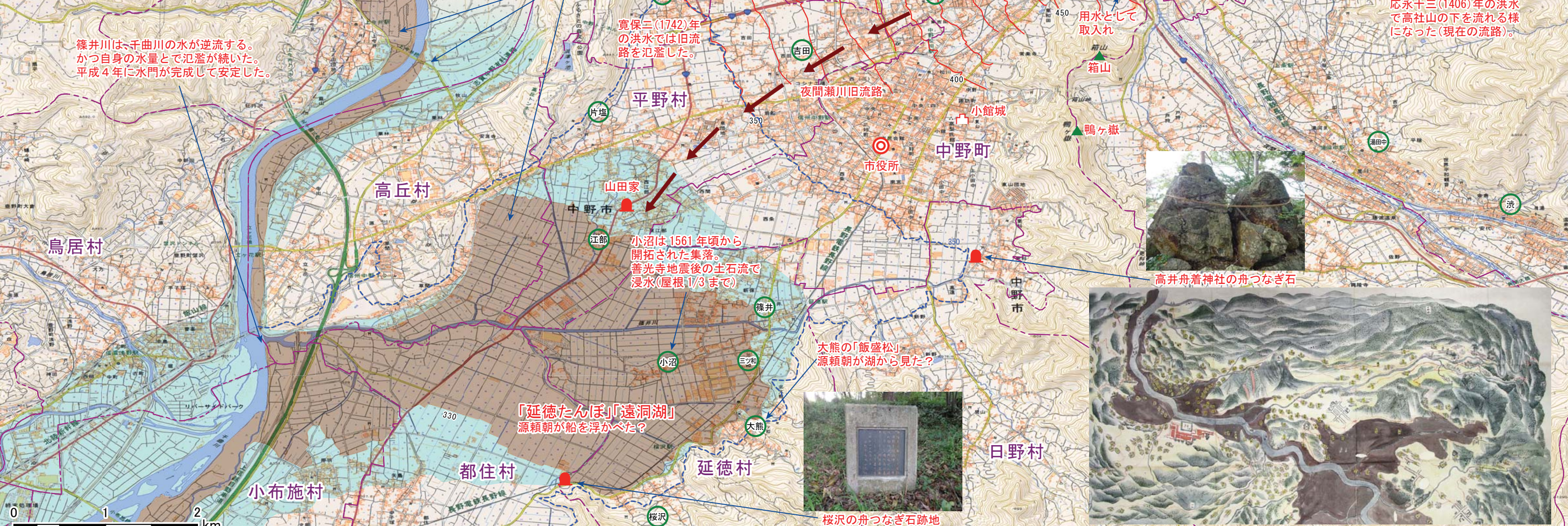


| 西暦 | 和暦 | 夜間瀬川扇状地の主な災害 |
|------|------|--|
| 1197 | 建久八 | 源頼朝、善光寺参詣の折り、遠洞湖の舟上から大熊の飯盛松を鑑賞。 |
| 1350 | 観応元 | 夜間瀬川氾濫。千曲川は延徳たんぼを迂回せず立ヶ花へ直流するようになる。 |
| 1406 | 応永十三 | 「延徳たんぼ」へ流入していた夜間瀬川、この洪水で高社山麓の現在の流路となる。 |
| 1489 | 延徳元 | 岩倉沢池(現在の田ノ原湿原)が溢れ、遠洞湖(延徳たんぼ)へ流入した。 |
| 1516 | 永正十三 | 少しづつ干上がってきた「延徳たんぼ」の開発を、高梨氏が始める。 |
| 1561 | 永禄四 | 小沼に入植・開発が始まる。 |
| 1603 | 慶長八 | 夜間瀬川大洪水。 |
| 1611 | 慶長十六 | 飯山藩主、安源寺など四か村の湿地の開発を命じる。 |
| 1614 | 慶長十九 | 豪雨により高社山で土石流。土石流は蛇礫(じゃがら)地蔵の辺りまで流下か。 |
| 1721 | 享保六 | 夜間瀬川洪水。 |
| 1723 | 享保八 | 夜間瀬川洪水、越村で堤防決壊し大水害となる。 |
| 1731 | 享保十六 | 夜間瀬川洪水、壁田村大水害となる。 |
| 1742 | 寛保二 | 千曲川・夜間瀬川大洪水。「戊の満水」。 |
| 1747 | 延享四 | 夜間瀬川洪水、竹原村で堤防決壊。 |
| 1757 | 宝暦七 | 竹原村など五箇村、夜間瀬川洪水により堤防決壊。 |
| 1847 | 弘化四 | 小沼村、善光寺地震後の天然ダム決壊洪水で屋根まで浸水する。 |
| 1850 | 嘉永三 | 「延徳たんぼ」大水害し、草間村の水田全てが冠水する。 |
| 1855 | 安政二 | 夜間瀬川洪水、松崎から金井用水口までの堤防決壊。 |
| 1860 | 万延元 | 夜間瀬川の流路、洪水により柳沢側へ移動。 |
| 1890 | 明治二三 | 夜間瀬川洪水、竹原・金井・笠原の堤防決壊。 |
| 1894 | 明治二七 | 夜間瀬川洪水。 |
| 1896 | 明治二九 | 夜間瀬川の堤防、金井・笠原で決壊し、間長瀬・壁田・笠原に水害。 |
| 1910 | 明治四三 | 夜間瀬川沿岸住民、横湯川砂防事業中止に反対し、中野町で郡民大会開く。 |
| 1950 | 昭和二五 | 豪雨により夜間瀬川は大洪水、角間川の堤防が切れて穂波温泉がほぼ全滅した。 |
| 1958 | 昭和三三 | 夜間瀬川増水、越橋上流の堤防決壊し、金井・間長瀬・壁田で水害。 |
| 1959 | 昭和三四 | 千曲川・夜間瀬川洪水。 |
| 1961 | 昭和三六 | 千曲川洪水、「延徳たんぼ」十三日間冠水。※これ以降は冠水していない。 |
| 1986 | 昭和六一 | 夜間瀬川洪水、竹原・笠原で堤防を侵食し、長野電鉄木島線の鉄橋橋脚を破壊。 |
| 1992 | 平成四 | 篠井川樋門の竣工式行われる。 |



凡例

- 寛保二年(1742)の推定冠水範囲
- 弘化四年(1847)の善光寺地震における岩倉山の天然ダム決壊による土石流の推定氾濫範囲
- 古遠洞湖の推定範囲(舟つなぎ石を結んだライン)
- 旧流路
- 昭和25年(1950)の市町村界(中野市、山ノ内町発足前の市町村界)



篠井川は、千曲川の水が逆流する。かつ自身の水量とで氾濫が続いた。平成4年に水門が完成して安定した。

「延徳たんぼ」の範囲と同じくらい。善光寺地震後の天然ダム決壊による土石流の氾濫。

寛保三(1742)年の洪水では旧流路を氾濫した。

小沼は1561年頃から開拓された集落。善光寺地震後の土石流で浸水(屋根1/3まで)

大熊の「飯盛松」源頼朝が湖から見た?

「延徳たんぼ」「遠洞湖」源頼朝が船を浮かべた?

応永十三(1406)年の洪水で高社山の下を流れる様になった(現在の流路)。